

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(4)、2(2)、3(1)】

- 小・中学校における「特別の教科 道徳」の実施を踏まえ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を児童生徒の内面にしっかりと育むため、自分ならどうするかという視点に立って課題と向き合い、自分と異なる意見をもつ他者と議論する「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ります。
- 教員の「特別の教科 道徳」への理解を深めるため、道徳教育推進教師等の職務研修や希望研修の一層の充実を図り、教科書の使用や各種道徳教材の効果的な活用方法等を周知します。また、本県版の「指導の手引」を作成し、校内研修等で積極的な活用を図り、教員の指導力向上へとつなげます。
- すべての教員が、子どもたちの心を育てるという強い使命感を持って道徳教育に取り組むことができるよう、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師等が中核となって道徳教育の充実を図ります。
- いじめを生まない環境を醸成し、いじめの未然防止を図るため、道徳教育において、規範意識を高め、自尊感情を育むとともに他者を尊重する態度を育て、生命の尊さを理解する豊かな心の育成を目指した取組を推進します。(再掲)
- 家庭や地域とのより一層の連携を進めるとともに、道徳教育に関わる情報発信や地域との相互交流の場の設定など、道徳教育の充実を図るための取組を積極的に進めていきます。
- 徳島県道徳教育推進協議会において、研究指定校事業や県版の地域教材の作成、「指導の手引」の作成などに関して、専門的な見地から指導助言を受け、本県の道徳教育の改善・充実を図ります。
- 高等学校等における道徳教育では、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行います。また、道徳教育担当者研修会を一層充実させ、教員の指導力向上を図ります。
- 情報技術が急速に進化していく情報社会において、適正に活動するための基本となる考え方や態度を児童生徒が身に付けられるよう、学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育のより一層の充実に取り組みます。
- 豊かな感性を育み、創造性に富む生きる力の醸成へとつながる読書活動の推進のため、読書に親しむ機会の提供・環境の充実を引き続き進めるとともに、学校・家庭・地域の連携により、主体的に読書に取り組む子どもたちの育成を目指します。
- 県立牟岐少年自然の家を子どもたちの体験活動の拠点として、地域の自然や文化活動を生かした自然体験・交流体験・環境学習等を実施し、達成感や成功体験を得ることにより、自己肯定感を育む取組を推進します。(再掲)
- 地域で活動する社会教育団体間の交流の促進や情報提供を行うことにより、子どもたちの交流・体験活動の機会の創出を支援し、豊かな人間性を育みます。(再掲)

施策の方向性 家庭教育支援の充実

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点であるとの認識のもと、社会全体で家庭教育をサポートする気運を醸成するとともに、関連する情報の提供や相談対応、子育て支援サービスの充実など、各家庭の自主的な取組を多面的に支援します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章3(1)(4)】

- 家庭教育学習用教材「とくしま親なびプログラム集」をより効果的に活用できるよう、内容の充実を図るとともに、新たな課題に対するプログラムを追加します。
- 家庭教育に関する地域の研修会等で中核となる「とくしま親なびげーたー（ファシリテーター）」を、県内の各園・学校等で開催するワークショップに派遣するとともに、「とくしま親なびげーたー」の成果を発表する機会を創出します。
- 家庭の教育力向上を図るため、保護者を支える祖父母や、次世代に親となる高校生等を対象とした各種講座を実施します。
- 子どもたちの健全育成とPTA活動の活性化を図るため、PTA会長・指導者を対象に、時代や社会の変化を的確に捉えた研修会を実施します。
- 家庭における規則正しい生活習慣の確立のため、「早寝 早起き 朝ごはん」運動の周知・啓発を推進します。

施策の方向性 生涯にわたって学び続ける環境づくり

まなびーあ徳島やシルバー大学校など、子どもから高齢者まで県民一人ひとりが生涯にわたって学び続ける徳島ならではの学習機会を提供するとともに、文化の森総合公園や公民館等の社会教育施設を拠点とした活動の充実を図ります。

県民が学び続けた知識を地域に還元できるよう、とくしま学博士やシニアITアドバイザーなどが活躍できる機会を充実します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章3(1)(4)、4(1)(4)(5)】

- 社会教育主事をはじめとする社会教育関係者・団体を対象に、社会教育研修大会を開催し、学びや交流の機会を通じて、連携・ネットワーク化を推進します。
- 地域課題解決に主体的に取り組む次代のリーダーとして、社会教育関係者・団体との連携・協働を推進するコーディネーターや、それらの相互理解や協働活動を支援するファシリテーターの養成に取り組みます。
- 市町村を横断する公民館同士の交流や、他の社会教育施設や団体との連携・協働を促す機会を提供し、相互のネットワークを形成することで、公民館を中心とした講座の開催や行事の充実に寄与します。

【総合教育センターを拠点とした取組】

- 県内の高等教育機関等や市町村教育委員会との連携を強化し、生涯学習情報システムに登録する人材・指導者、団体・サークル、講座・イベント等の情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。
- まなびーあ徳島（県立総合大学校）やマナビィセンター主催講座をはじめとする徳島ならではの学習機会の提供を図るとともに、図書・視聴覚教材の充実に努め、県民の生涯学習の拠点となるよう学習支援体制の強化を図ります。
- 地域の活性化に取り組むリーダーを養成し、とくしま学博士などが実践的に活動できる場の提供を行い、地域が抱える課題の解決や地方創生につなげます。
- 県内外大学のサテライトオフィスや高等教育機関が有する先端機器等を活用することにより、県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。

【文化の森総合公園を拠点とした取組】

- 文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。
- まなびーあ徳島（県立総合大学校）や放送大学徳島学習センターと連携し、古文書講座やパソコン講座、こども鑑賞クラブ、まなびの森講演会など、幅広い世代に向けた多様な学習機会を提供します。
- 阿波学会や徳島地域文化研究会等、地域の学術研究団体と連携し、地域に関する科学的調査に取り組みます。
- 各館が所蔵する作品や資料について、デジタルコンテンツを効果的に活用することにより利用促進を図ります。
- 障がい者や外国人、高齢者など誰もが利用しやすい施設となるよう、施設のユニバーサル化をより一層進めます。

【生涯スポーツの充実】

- スポーツが日々の暮らしに定着し、誰もがそれぞれの年齢や体力、目的に応じてスポーツに親しむことができるよう、スポーツイベントなどへの助成や情報発信を行います。
- 総合型地域スポーツクラブにスポーツ指導者等を派遣し、子どもの体力向上や糖尿病など生活習慣病予防対策等の取組を推進するとともに、スポーツボランティアの養成と活用を図ります。

〈主要事業実施工程表〉 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| ■子どもたちが放課後や週末等に多様な学びや体験活動及び地域住民との交流体験を行う環境づくりを推進します。 □放課後や週末等における体験活動の実施率 ㊹80%→㊺100% | 90% | 90% | 95% | 100% | 100% |
| ■授業の補助や読み聞かせ等の教育支援活動などを行う団体を「学校サポーターズクラブ」として認証し、学校支援の体制づくりを推進します □「学校サポーターズクラブ」の登録数 ㊹89団体→㊺113団体 | 93 団体 | 98 団体 | 103 団体 | 108 団体 | 113 団体 |
| ■高校生を対象とした読み聞かせの講習会等を実施するとともに、地域での読み聞かせを体験できる機会の充実を図ります。 □講習会等への高校生の参加者数 ㊹85人→㊺100人 | 92人 | 94人 | 96人 | 98人 | 100人 |
| ■地域住民の積極的な参加による防犯・交通安全・防災の総合的な学校安全ボランティア活動の支援を行い、児童生徒の安全確保を図る取組を継続的に推進します。 □学校安全ボランティア（スクールガード）数 ㊹12,000人以上→㊺12,000人以上 | 12,000 人以上 | 12,000 人以上 | 12,000 人以上 | 12,000 人以上 | 12,000 人以上 |
| ■公立学校に学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入し、地域に開かれた学校づくりを進めます。 □学校運営協議会制度を導入した学校数 ㊹16校→㊺20校 | 16校 | 18校 | 18校 | 20校 | 20校 |
| ■定時制・通信制課程での修学を促進するため、生徒の教科書等購入にかかる費用を補助します。 □定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業 ㊹推進→㊺推進 | 推進 | | | | → |
| ■私立学校の健全運営と魅力ある学校づくりを支援します。 □私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保（再掲） ㊹支援→㊺支援 | 支援 | | | | → |
| ■道徳教育の充実に引き続き取り組むとともに、家族と一緒に話し合うなど家庭や地域と連携して道徳教育を推進します。 □道徳の時間の授業参観を実施している学校の割合 小学校 ㊹95%→㊺100% 中学校 ㊹81%→㊺94% | 100% 90% | 100% 91% | 100% 92% | 100% 93% | 100% 94% |
| ■学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育の充実に取り組みます。 □情報モラルコンテンツ数（累計） ㊹27コンテンツ→㊺67コンテンツ | 35 コンテンツ | 43 コンテンツ | 51 コンテンツ | 59 コンテンツ | 67 コンテンツ |
| ■牟岐少年自然の家を拠点とし、地域との交流を深める自然体験・交流体験等を推進します。 □自然体験・交流体験等への参加者数（再掲） ㊹813人→㊺900人 | 900人 | 900人 | 900人 | 900人 | 900人 |

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|---|-------------|----------|----------|----------|----------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| ■家庭教育に関する研修会等で中核となる「とくしま親なびげーたー」を養成し、県内の各園・学校等で開催されるワークショップ等に派遣します。 □「とくしま親なびげーたー」の派遣者数 ㊹85人→㊺100人 | 100人 | 100人 | 100人 | 100人 | 100人 |
| ■公民館をはじめとした社会教育関係者・団体を対象に研修会を開催し、学びや交流の機会を通じて連携・ネットワーク化を推進します。 □研修会への参加者数 ㊹696人→㊺700人以上 | 700人以上 | 700人以上 | 700人以上 | 700人以上 | 700人以上 |
| ■生涯学習情報システムの情報を充実させることにより、多様な学習機会を提供します。 □生涯学習情報システムへのアクセス件数 ㊹99,000件→㊺104,000件 □人材・指導者、団体サークルの登録件数（累計） ㊹990件→㊺1,040件 | 100,000件 | 101,000件 | 102,000件 | 103,000件 | 104,000件 |
| ■主催講座をはじめ、多様な学習機会を提供することで、マナビィセンターを県民の生涯学習の拠点とします。 □マナビィセンターの利用者及び受講者数 ㊹52,000人→㊺53,500人 | 1,000件 | 1,010件 | 1,020件 | 1,030件 | 1,040件 |
| ■主催講座をはじめ、多様な学習機会を提供することで、マナビィセンターを県民の生涯学習の拠点とします。 □マナビィセンターの利用者及び受講者数 ㊹52,000人→㊺53,500人 | 52,300人 | 52,600人 | 52,900人 | 53,200人 | 53,500人 |
| ■地域が抱える課題の解決や地方創生につなげる人材を養成し、実践的に活動できる場を提供します。 □地域の活性化に取り組むリーダーを養成する講座の受講者数 ㊹680人→㊺830人 | 710人 | 740人 | 770人 | 800人 | 830人 |
| ■県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。 □サテライトオフィスを活用した講座の受講者数 ㊹→㊺100人 | 20人 | 40人 | 60人 | 80人 | 100人 |
| ■優れた芸術作品に直接触れ合う機会を設けるとともに、幅広い世代を対象とした普及行事を実施し、「あわ文化」の担い手を育みます。 □文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数 ㊹270回→㊺270回以上 | 270回以上 | 270回以上 | 270回以上 | 270回以上 | 270回以上 |
| ■文化の森総合公園各文化施設のさらなる利便性向上に努め、魅力ある企画展やイベントを開催することにより、文化・芸術の感動や体験の場を提供します。 □文化の森総合公園各文化施設入館者数総計（累計） ㊹2,125万人→㊺2,525万人 | 2,205万人 | 2,285万人 | 2,365万人 | 2,445万人 | 2,525万人 |
| ■学芸員等専門職員が学校で出前授業を行うことにより、子どもたちの郷土に対する理解を深めます。 □博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の学校への講師派遣回数 ㊹70回→㊺70回以上 | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 |

〈推進項目③〉時代の潮流を見据えた学びの推進

施策の方向性 将来を担う若者への主権者教育の充実

選挙権年齢が18歳以上に引下げられたことに伴い、小・中・高校のそれぞれの段階において、政治や選挙制度に対する理解と参加意識を高めるとともに、模擬投票などの体験型学習を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実に取り組みます。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(2)】

- 「学校における主権者教育を推進するための指針」、及び生徒用ハンドブック「私がかわる『社会(YONONAKA)』がかわる！私がかえる『社会(YONONAKA)』をかえる！はじめの一步!!」の活用を促進し、主権者として必要な資質・能力の育成に取り組めます。
- 学校の教育活動全体を通じて主権者教育に取り組むため、各学校で中核となる教員の指導力向上を目的とした研修会を開催します。
- 主権者教育に係る体験的・実践的な学びを推進するため、県及び市町村選挙管理委員会等の関係機関と連携・協働し、模擬投票等の実践的活動や出前講座等を実施し、児童生徒の主権者意識を高めます。
- 家庭と連携した主権者教育を推進するため、PTAの協力を得て、授業参観など学校行事の機会を捉えて保護者参加の出前講座を開催したり、選挙の際に子どもと一緒に投票に行くよう呼びかけるなど、家庭も主権者教育の担い手となるよう働きかけます。

施策の方向性 全国モデルの消費者教育の推進

消費者情報センターにおける相談体制の充実、消費者教育の拠点としての機能強化を図るとともに、就学前の金銭教育から消費者大学校・大学院における地域の消費者活動を推進するリーダーの養成など各ライフステージでの体系的な取組、高校生が発信するエシカル消費の実践など、全国モデルとなる消費者教育を推進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、5(4)】

- 幼児期からの発達段階に応じた金銭・金融教育や環境教育等、系統的・体系的な消費者教育に引き続き取り組むとともに、地域の特色を生かし、地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。
- 6次産業化教育を推進し、生産、商品開発、加工、販売における一連の実践的な取組を通して、消費者教育を推進します。
- 県内すべての公立高校においてエシカルクラブの取組を実施するとともに、各校を牽引するエシカル消費リーディングスクールを指定します。さらに、その取組成果を実践報告集としてまとめ、県内外へ発信します。

- エシカル消費に取り組む高校生が、ポスターセッションやワークショップなどを通じて活動成果を発表する機会を創出し、エシカル消費の普及・拡大を図ります。
- 消費者行政新未来創造オフィスが実施する施策の推進を強力にサポートしながら、SDGs達成に向けた取組や持続可能な社会づくりに向けて、とくしま消費者行政プラットフォームを拠点として関係機関と連携を図り、教職員の指導力向上や、若年者向け消費者教育教材の活用を推進します。
- 「とくしま消費者教育人材バンク」に登録された団体や大学をはじめ、多様な主体と連携し、ライフステージに応じた消費者教育の推進に取り組めます。
- 徳島県消費者情報センターと引き続き連携を図り、消費者問題の今日的課題に関する出前講座を実施するなど、消費者教育の普及・啓発に取り組めます。
- 消費者教育に関する専門的知識を持った教員を育成するため、大学・行政等と連携を図り、すべての校種を対象に指導者養成講座を実施します。

施策の方向性 未来へつなぐ環境教育の推進

風力・水力・太陽光等の発電や環境学習の拠点となる施設の整備、全国展開をリードする水素社会の構築や水素啓発・体験ゾーンの活用など、未来のエネルギーである自然エネルギーと水素への関心を高め、その普及促進を図るとともに、参加体験型学習や自然保護活動を通じて、環境を保全する新たな担い手を育成するなど、美しく豊かな環境を未来へつなぐ教育を推進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章2(2)】

- 児童生徒の自然エネルギーや水素に対する関心と理解を深め、環境の保全に寄与する態度を育成するため、関係機関と連携を図り、楽しみながら環境について学ぶことができる機会を提供し、その利用促進に取り組めます。
- 環境首都とくしま創造センター（愛称：エコみらいとくしま）と連携を図り、同センターが作成している「とくしま環境学習プログラム」などの環境学習に関する教材について、学校での積極的な活用を推進します。
- 「新 学校版環境ISO」認証取得校の取組や環境教育に関する資料について、県のホームページ等から情報発信することで、「新 学校版環境ISO」の認証取得をより一層進めます。
- 学校施設の環境負荷低減を促進するため、県立学校においては、太陽光発電装置の設置や省エネルギー・省資源対策としての断熱化、学校施設の木質化等を引き続き促進するとともに、市町村に対しても積極的に取り組むよう働きかけます。

施策の方向性 新たな成長産業を生み出す教育の推進

本県経済の基幹をなし、良質な雇用の場である「ものづくり産業」において、著しく進展する技術革新に対応し、新たな価値を生み出していくため、これを担う創造性豊かな人材を育成する実践的な職業教育体系を構築します。

県立高校における農・工・商連携の推進、県立農業大学の専修学校化、全国初の6次産業化をテーマとした徳島大学生物資源産業学部の開設など、将来の選択肢を広げる基盤づくりが展開される中、本県の強みである農林水産物の付加価値をさらに高めるとともに、新たな「とくしまブランド」を生み出す発想と産業を開拓する創造的実行力を育成するため、新たな6次産業化人材育成システムを構築します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、5(3)】

- 城西高校アグリビジネス科においては、生産から商品開発・加工・販売までを一体的かつ実践的に学習できる6次産業化教育に対応したアグリビジネス実習棟での取組を通して、同棟に設けられた完全人工光(LED)型植物工場や、太陽光発電装置による再生可能エネルギー等を利用することにより、農業教育と環境教育の新たな展開を図ります。
- 「徳島ならではの」6次産業化に対応した教育を推進するため、学校間連携にとどまることなく、企業や大学、県の試験研究機関等との連携を積極的に強化することにより、6次産業化人材育成の推進を図ります。
- 平成30年4月に阿南光高校を開校し、農工商が一体化した特色ある教育、ものづくりを重視した教育及び徳島大学との連携・協力による高大接続教育を展開し、地方創生の原動力となる人材を育成します。
- 「徳島県農工商教育活性化方針」に基づく取組について、平成27年度から5か年間の成果・課題等を踏まえ、今後の技術革新の進展や産業構造の変化を見据えた新たな次期活性化方針の策定に着手します。
- 産学官連携事業では、企業・大学関係者や地域住民等を対象に、高校生による報告会を開催し、「徳島ならではの」ものづくりを広報するとともに、評価・助言を得る機会を設けます。また、活動成果をまとめた報告書を作成し、小・中学校に配布することで、ものづくりのすばらしさや専門高校等の活動を周知します。

〈主要事業実施工程表〉時代の潮流を見据えた学びの推進

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|---|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| ■平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質・能力を育むため、主権者教育を学校全体の取組とし、体験的・実践的な学びを重視した主権者教育を推進します。 □公立小・中・高校及び特別支援学校における、主権者意識を高める教育の充実のための出前講座の実施校数 ㊦42校→㊧52校 | 44校 | 46校 | 48校 | 50校 | 52校 |
| ■自立した消費者の育成に向けて、発達段階に応じた系統的・体系的な消費者教育に取り組むとともに、地域の特性を生かし、地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。 □消費者教育研究指定校数（累計） ㊦34校→㊧59校 | 39校 | 44校 | 49校 | 54校 | 59校 |
| ■エシカル消費に関する教育の普及・拡大を図るため、県内すべての公立高校にエシカルクラブを設置します。 □公立高校におけるエシカルクラブの設置率 ㊦33%→㊧100% | 66% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| ■特別支援学校をエコステーションとして拠点化し、児童生徒がエコボランティアとして、開発したエシカル商品や製品を家庭や地域に提供することにより、エシカル消費に対する意識の向上を図ります。 □エシカル活動・作品を地域に提供した特別支援学校数 ㊦5校→㊧11校 | 7校 | 8校 | 9校 | 10校 | 11校 |
| ■生命や自然を大切にし、地域の環境を守るために行動できる、郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成を目指した公立小・中・高等学校及び特別支援学校の「新 学校版環境ISO」の取組を推進します。 □「新 学校版環境ISO」認証を取得した学校の割合 ㊦84.0%→㊧88.0% | 86.0% | 86.5% | 87.0% | 87.5% | 88.0% |
| ■農工商設置高校等の学校間連携・生徒間協働による6次産業化教育を推進します。 □6次産業化商品のプロデュース数（累計） ㊦7件→㊧22件 | 10件 | 13件 | 16件 | 19件 | 22件 |
| ■農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校を開校します。 □阿南光高校の開校（再掲） ㊦準備→㊧推進 | 開校 | 推進 | | | |
| ■地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育を展開します。 □県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数(累計)(再掲) ㊦10人→㊧55人 | 15人 | 25人 | 35人 | 45人 | 55人 |
| ■職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各大学科や学校独自の特色ある教育活動について、広く県民にアピールします。 □高校生産業教育展における来場者数（再掲） ㊦1,850人→㊧2,100人 | 1,900人 | 1,950人 | 2,000人 | 2,050人 | 2,100人 |

重点項目Ⅲ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

〈推進項目①〉徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

施策の方向性 郷土愛を育む教育の推進

県民一人ひとりが「ふるさと徳島」への誇りを持ち、郷土を愛する心を醸成するため、地域資源を活かした多様な体験・交流活動の機会を創出します。

あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、徳島に根付いた文化について学び、ふるさと徳島の魅力を発信する「あわっ子文化大使」など、次代のあわ文化の担い手を育成します。

県内高等教育機関と連携して、地域の課題解決や活性化に向けた地域連携フィールドワーク講座の開講、ボランティア活動を大学の単位として認める「ボランティアパスポート」拡充に取り組むなど、地方創生を担う人財を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(6)、2(2)、4(1)(2)(3)5(3)】

- 「あわ文化」に関する教育を充実するとともに、「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる人材の育成により一層取り組みます。
- 芸術文化活動に関する情報が、学校で使いやすく、児童生徒にわかりやすい形で提供できるよう取り組みます。
- 学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。
- 「ふるさと文化人材バンク」の拡充や4Kデジタルコンテンツの活用等を通して、児童生徒がふるさとの伝統文化や文化財を学び、理解を深めることにより、郷土徳島を誇りに思い、愛する心を育みます。
- 「ふるさと徳島」の魅力を幼児期から伝え、学校の教育活動の中で地域資源を活かした多様な体験・交流活動等の機会を取り入れ、徳島の魅力を実感できるように取り組みます。
- 郷土徳島が生んだ偉人の生き方や優れた功績を取り上げた本県独自の道徳教材を活用し、児童生徒が、郷土徳島に誇りを持ち、社会の発展に尽くした先人への尊敬と感謝の念を深め、我が国を愛する心を育むための取組を推進します。
- 県内に所在する様々な文化財の保護を図るため、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。
- 「NIPPON」探究スクール事業では、世界の中の我が国と徳島の歴史を紐解きながら、我が国と郷土を愛し、他国を尊重する態度と心を育成するという事業の趣旨を踏まえ、生徒自身が主体的に社会に参画し自立して社会生活を営むために必要な力について考える機会づくりに取り組みます。
- 文化の森総合公園では、子どもから大人まで生涯にわたって郷土の自然や歴史・文化

に対して理解を深めることができるよう、学校での授業・課外活動での利用を促進するとともに、博物館、近代美術館、文書館の所蔵する資料の展示・貸出や職員の講師派遣をより一層進めます。

- 鳥居龍蔵記念博物館においては、より一層資料の充実・活用や調査研究を推進するとともに、2020年鳥居龍蔵生誕150年を好機として、鳥居龍蔵及びその業績の浸透を図ります。

施策の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大

大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、大学等サテライトオフィス開設支援制度を活用し、県内外の大学サテライトオフィスの誘致により、地域密着した教育・研究活動や公開講座等の地域貢献活動を促進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、4(1)】

- 阿南光高校に高大連携や地域・民間連携の拠点となる高校・大学・地元企業が一体化したキャンパスを創設し、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組むことにより、地方創生の原動力となる人材を育成します。
- 高大連携のもと、SNSを活用して大学生から高校生への情報提供、高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）出張講義一覧」の作成、高大接続改革フォーラムの開催等、内容の充実を図り、高校と大学の更なる連携強化を目指します。
- 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。
- 京都大学と県内の連携指定校との間で行われている出前授業や、オープン授業等の取組をさらに充実させるとともに、京都大学のELCASや大阪大学のSEEDS、兵庫県4大学（神戸大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学）によるGSC-Hyogo等の取組に県内の高校生がより多くチャレンジするように促します。
- マナビィセンター（総合教育センター1階）においては、県内外大学のサテライトオフィスや高等教育機関が有する先端機器等を活用することにより、県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。（再掲）

施策の方向性 若者による未来志向のアイデアの創出

若者が自由な発想と新たな視点で、自由闊達に夢を語り、従来の枠にとらわれない創造的なアイデアを提案する「とくしま若者未来夢づくりセンター」の活動を通じ地域への理解を深め、多様な価値観を共有しながら創りあげた新たなアイデアが政策に反映される達成感を味わうことで、「ふるさと徳島」に貢献する意欲あふれる人財を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章5(3)】

- 若者が集い、身近な課題について未来志向で対話し、課題解決のための新しい視点や手法を生み出す取組に、高校生も積極的に参加するよう呼びかけ、地方創生に貢献する人材の育成を目指します。
- スーパーオンリーワンハイスクール事業では、地域が抱える課題について、高校生ならではの解決を図る活動を重視し、地域社会に向けた成果の普及・発信の充実に取り組みます。

施策の方向性 「とくしま回帰」の促進

大学生等の県内就業を促進し、本県産業を担う人財の確保を図るため、経済団体や企業と連携して、奨学金返還支援制度を創設し、県内事業所等に一定期間就業した学生の奨学金の返還を支援するとともに、県内企業のインターンシップの拡充を図るなど、若者の地元定着を促進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)】

- 世界をフィールドに活躍する県内企業等と連携した「徳島ならではの」ものづくりや、地域の課題を解決する起業体験の取組等を推進し、徳島の未来づくりに積極的に参画する人材を育成します。
- 本県産業を担うことができる人材を育成するため、経済団体等と連携して、小・中・高等学校とその保護者を対象に、県内企業の見学バスツアーやインターンシップの拡充を図るなど、県内企業の魅力や技術の理解を推進します。
- 次の段階への進学・就職のみを見据えた進路指導に加え、未来の社会を創り上げていくという視点で児童生徒の意識の変容や資質・能力の育成に取り組みます。
- 若者のUターンや定着・定住を促進するため、関係機関と連携を図り、高校生に対してSNS等を活用した情報発信システムへの登録・利用を促し、高校卒業後も、県内の企業や、「徳島ならではの」魅力ある生活・文化に関する情報を提供することにより、若者の「とくしま回帰」の意識を醸成します。
- 教員採用審査において、他県の現職教員を対象とした特別選考を実施するとともに、県外の大学と連携した採用審査に係る説明会の開催等、積極的な広報を展開することにより、本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進を図ります。

施策の方向性 世界遺産登録への挑戦

文化遺産等の保存・活用を進め、先人の貴重な遺産を後世に引き継ぐとともに、地域への誇りや愛着を育むため、「四国八十八箇所霊場と遍路道」、「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指した取組を推進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章4(3)】

【四国八十八箇所霊場と遍路道】

- 世界遺産登録へ向け、世界遺産暫定一覧表記載候補提案書（平成28年8月提出）の内容充実を図り、次期国内暫定一覧表見直し時のリスト記載を目指します。
- 世界遺産登録に向けた課題である資産保護のため、国史跡の追加指定等を計画的に進めるとともに、「顕著な普遍的価値」の証明に向けた取組を加速します。
- 遍路道に残る石造物やお接待文化など遍路文化を継承していくため、市町村と連携を図り、遍路道ウォーキングや講演会等を開催し、県民の文化財保護意識を醸成します。

【鳴門の渦潮】

- 徳島県のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。
- 「鳴門の渦潮」について、自然的・文化的側面からの学術調査を進め、「鳴門の渦潮」が世界に誇る「顕著な普遍的価値」を証明するとともに、学術調査によって得られる様々な知見を、「鳴門の渦潮学」として児童生徒が学ぶ機会を設けることにより、地域の歴史や文化を理解し、徳島を愛する心の育成を図ります。
- 児童生徒自らが、ポスター、俳句、書道などの作品制作を通じて「鳴門の渦潮」を学び、知り、考えるきっかけとするため文化コンクールを開催し、「鳴門の渦潮」の文化的価値を高めます。

【板東俘虜収容所関係資料】

- 「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録を推進するため、シンポジウムを開催するなど、機運醸成の取組を継続します。
- 板東俘虜収容所の歴史やユネスコ「世界の記憶」登録への取組について高等学校等で出前授業を行い、若年層に向けて、平和を愛する心、郷土への誇りを育む教育を実施します。
- 4Kデジタルコンテンツ等を活用して、我が国が世界に誇るべき板東俘虜収容所の歴史が持つ魅力を、国内はもとより世界に向けて発信します。

〈主要事業実施工程表〉 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| <p>■「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる人材を育成します。</p> <p>□「あわ文化検定」の受検者数 ㊹931人→㊺1,050人</p> | 950人 | 975人 | 1,000人 | 1,025人 | 1,050人 |
| <p>■伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む若い世代の増加に努め、次代の担い手を育みます。</p> <p>□人形浄瑠璃伝承教室の参加者数（累計） ㊹1,658人→㊺1,858人</p> | 1,698人 | 1,738人 | 1,778人 | 1,818人 | 1,858人 |
| <p>■児童生徒が郷土の伝統文化や文化財への理解を深めることにより、ふるさと徳島を愛する心を育みます。</p> <p>□「ふるさと文化人材バンク」を活用し、あわ文化学習に関する講師を派遣した学校数 ㊹58校→㊺93校</p> | 65校 | 72校 | 79校 | 86校 | 93校 |
| <p>■地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを広く発信します。</p> <p>□埋蔵文化財総合センター利用者数 ㊹9,200人→㊺9,300人</p> | 9,300人 | 9,300人 | 9,300人 | 9,300人 | 9,300人 |
| <p>■史跡・埋蔵文化財についての講演会やウォーキングを開催し、県民の文化財保護意識を醸成します。</p> <p>□史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加者数 ㊹350人→㊺470人</p> | 470人 | 470人 | 470人 | 470人 | 470人 |
| <p>■県内に所在する文化財の保存と活用を進め、ふるさと徳島の魅力を伝えます。</p> <p>□国・県指定文化財件数 国 ㊹99件→㊺104件 県 ㊹335件→㊺340件</p> | 100件 336件 | 101件 337件 | 102件 338件 | 103件 339件 | 104件 340件 |
| <p>■学芸員等専門職員が学校で出前授業を行うことにより、子どもたちの郷土に対する理解を深めます。</p> <p>□博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の学校への講師派遣回数（再掲） ㊹70回→㊺70回以上</p> | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 | 70回以上 |
| <p>■農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校を開校します。</p> <p>□阿南光高校の開校（再掲） ㊹準備→㊺推進</p> | 開校 | 推進 | | | |
| <p>■高校と大学の教育内容が接続されるよう、高大連携の更なる強化に取り組みます。</p> <p>□高校と大学の情報交換会やフォーラムの開催回数 ㊹2回→㊺2回</p> | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| <p>■鳴門教育大学との連携協定に基づき、各専門部会での取組を通じて、本県教育の充実を図ります。</p> <p>□鳴門教育大学との連携（再掲） ㊹推進→㊺推進</p> | 推進 | | | | |

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|--|-------------|------------|------------|------------|------------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| ■京都大学と県内の連携指定校との間で行われている取組の充実を図ります。 □出前授業やオープン授業の実施校数 ㊹1校→㊺11校 | 3校 | 5校 | 7校 | 9校 | 11校 |
| ■県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。 □サテライトオフィスを活用した講座の受講者数（再掲） ㊹→㊺100人 | 20人 | 40人 | 60人 | 80人 | 100人 |
| ■新商品の開発や地域の活性化など、高校生による課題解決に向けた取組を支援します。 □スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数（再掲） ㊹3事例→㊺3事例 □6次産業化商品のプロデュース数（累計）（再掲） ㊹7件→㊺22件 | 3事例 10件 | 3事例 13件 | 3事例 16件 | 3事例 19件 | 3事例 22件 |
| ■本県産業を担う人材を育成するため、県内企業の魅力や技術の理解促進を図ります。 □高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制）（再掲） ㊹97.6%→㊺100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| ■優秀な教員を確保するため、県内外の大学において教員採用に係る説明会を開催します。 □県内外大学における教員採用に係る説明会開催数（再掲） ㊹19回→㊺24回 | 20回 | 21回 | 22回 | 23回 | 24回 |
| ■「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録の推進に向けて、国史跡の追加指定等を計画的に進めます。 □札所寺院の国史跡追加指定に向けた意見具申 ㊹→㊺2カ寺 | 意見具申 | 推進 | | | |
| ■「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指します。 □世界遺産登録に向けた取組の推進 ㊹学術調査の実施→㊺申請書案を文化庁へ提出 | 調査 | | 提出 | 推進 | |
| ■「鳴門の渦潮学」講座を開催することで、地域の歴史や文化を理解し、地域に愛着を持った児童生徒の育成を図ります。 □小・中学生向け講座の実施回数 ㊹準備→㊺15回 | 5回 | 7回 | 10回 | 12回 | 15回 |
| ■「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録に向け、機運醸成、魅力発信を推進します。 □「世界の記憶」登録に向けた取組の推進 ㊹準備→㊺推進 | 推進 | | | | |

〈推進項目②〉世界に羽ばたくグローバル人材の育成

施策の方向性 徳島発、世界を体感できる環境づくり

Tokushima 英語村プロジェクト、徳島ウインターキャンプなど本県独自の取組において、志高き仲間との切磋琢磨を通し、コミュニケーション能力、語学力はもとより、総合的な人間力を高め、次代のトップリーダーとして育成し、世界に羽ばたく教育を推進します。

海外の学校との交流活動の展開や高等教育機関、経済団体、企業が一体となって海外留学や国内外インターンシップ活動を支援することにより、グローバルな視点と地域の視点（ローカル）を兼ね備えたグローバル人材を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(3)、5(5)】

【英語力の向上】

- 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、ふるさと徳島の魅力を学ぶ補助教材であるデジタルコンテンツを活用し、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成などを推進します。
- 小・中・高等学校において英語教育の指導改善を図るため、各学校における学習到達目標を「CAN-DOリスト」形式で具体化し、英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組み、児童生徒の英語力向上を図ります。

【生きた英語に触れる機会の創出】

- 英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成と、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、広く社会へ目を向け国際協調の精神を育むため、小・中・高等学校の発達段階に応じた英語体験プログラムをメニューとするTokushima 英語村プロジェクトにより、児童生徒が世界を体感する場を提供します。
- 中学生や高校生に国際的な視野を持たせ、海外への関心を高めるため、海外勤務・留学経験のある社会人・大学生等を講師として学校等に派遣する取組や、県内在住の外国人、留学生、海外ボランティア経験者等の人材を活用した国際理解教育を推進します。
- 留学、語学研修を希望する中学生・高校生に対して経費の支援を行い、留学等の促進を図ります。また、海外の高等学校・大学への留学・進学や、国内においてグローバル化を先導する大学への進学を希望する中学生、高校生、保護者等に対する各種の情報提供や手続面での助言等の支援を行います。

【グローバル・リーダーの育成】

- S GH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け、健康増進の観点も取り入れた特色ある研究開発をしている城東高校の取組を支援し、持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・リーダーに必要な態度や素養の育成を図ります。（再掲）
- 「教育交流に関する協定」を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州や台湾・新竹市など、海外の学校からの教育旅行の受入や学校間のパートナーシップ協定締結等を促進することにより、教育、文化、スポーツ等の幅広い分野において児童生徒の交流の機会を拡充し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚の育成を推進します。

【帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導】

- 大学や各種関係団体等とのネットワークを構築することで、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。
- 市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行う体制を早期に築くことで、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適応し、学力を向上させることができるよう支援します。
- 帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことによって、学級の他の児童生徒も異文化に対する相互理解を深め、豊かな国際感覚を養うことができるよう、学習活動の工夫・改善に取り組みます。

施策の方向性 科学の魅力を実感し、世界に挑戦

県内外の大学生等が、県内の高校生と一緒に学び、科学の素養を磨く「とくしま科学技術アカデミー」を創設するとともに、県内の小・中学生へ体験型の科学の出前講座などを実施する体験型講座を開講し、科学技術の未来を切り拓く人材を育成します。

日本が世界に誇る科学分野において、自主的に取り組む能力と意欲のある子どもたちが、知識を旺盛に吸収し、自分自身で真理を探究しながら、国際科学オリンピックや科学の甲子園などを目指し、より高い次元へと自己研鑽するチャレンジを支援します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、2(1)】

- 「とくしま科学技術アカデミー」において、小・中・高校生に対して科学の面白さに触れる体験型講座を実施することにより、科学技術人材の裾野の拡大を図るとともに、科学技術に関する素質と意欲を持つ児童生徒の才能や可能性をさらに伸ばします。
- 国際科学オリンピックに関する講習会や科学の甲子園徳島県予選の開催を周知し、より多くの高校から集った理数系の学びに興味を持つ高校生が切磋琢磨する機会を提供することにより、それぞれの高校で理数系の学習を牽引する核となる高校生を育てます。
- SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、理科や数学に重点を置いたテーマを定めて研究に取り組んできた、城南高校、脇町高校、徳島科学技術高校について、その取組の充実・発展を支援するとともに、研究成果の県内各校への普及を推進し、国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を目指します。（再掲）
- 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。（再掲）
- 平成30年4月、城北高校に理数科学科を新設し、地元大学や企業、研究機関と連携した課題研究などに取り組み、科学技術分野において、郷土徳島の産業活性化を担う人材を育成します。

〈主要事業実施工程表〉世界に羽ばたくグローバル人材の育成

| ■主要施策・主要事業の概要 □成果指標 | 平成34年度までの工程 | | | | |
|---|-------------|------|--------|--------|--------|
| | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
| ■「グローバル人材」の育成に向け、新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るため、小学校英語専科教員の配置を推進します。 □小学校英語専科教員の配置人数 ㉙10人→㉛16人 | 12人 | 14人 | 16人 | 16人 | 16人 |
| ■小学校英語教科化に伴う専門性向上のための研修の充実を図ります。 □英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数（累計）（再掲） ㉙436人→㉛1,580人 | 580人 | 830人 | 1,080人 | 1,330人 | 1,580人 |
| ■英語4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組み、児童生徒の英語力向上を図ります。 □求められる英語力を有する生徒の割合 中学校3年生 英検3級程度以上 ㉙47%→㉛65% 高等学校3年生 英検準2級程度以上 ㉙41%→㉛65% | 50% | 55% | 60% | 62% | 65% |
| ■小・中・高等学校の発達段階に応じて、生きた英語に触れる機会を創出します。 □児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数（累計） ㉙154人→㉛1,054人 | 334人 | 514人 | 694人 | 874人 | 1,054人 |
| ■持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・リーダーの育成を図ります。 □海外の学校等との交流校延べ数（中学・高校） ㉙22校→㉛32校 | 24校 | 26校 | 28校 | 30校 | 32校 |
| ■学校へ日本語講師を派遣したり、指導者研修会を開催したりすることにより、帰国・外国人児童生徒等に対する教育支援を推進します。 □学校への日本語講師の派遣 ㉙推進→㉛推進 | 推進 | | | | |
| ■国際科学オリンピック講習会等の開催を周知し、理数系の学習を牽引する高校生を育てます。 □国際科学オリンピック講習会の参加者数 ㉙220人→㉛245人 | 225人 | 230人 | 235人 | 240人 | 245人 |
| ■SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取組の研究成果を県内の各高校に普及します。 □SSH合同発表会への参加校数（再掲） ㉙5校→㉛10校 | 6校 | 7校 | 8校 | 9校 | 10校 |
| ■鳴門教育大学との連携協定に基づき、各専門部会での取組を通じて、本県教育の充実を図ります。 □鳴門教育大学との連携（再掲） ㉙推進→㉛推進 | 推進 | | | | |